



Flash News

(フラッシュニュース)

三重大学

第29号

目次

- 文部科学省「派遣型高度人材育成協同プラン」に採択される
- 「産学連携・ベンチャーサロンin東京」開催される
- 中部電力株式会社と産学連携に関する包括協定を締結
- 第1回日本-ドイツ再生医療カンファレンス
- A P A N国際会議
- I S O講演会
- 三重県との定期懇談会
- 学長補佐就任挨拶
- タイ国モンクット王ラカバン工科大学と学部間協定の締結

- 工学部で「リカレント教育講座」開催される
- 米国交流校訪問
- 工学部で「第6回レゴ・ロボット競技会」開催される
- 高大連携プログラム「スーパーサイエンスI・II」
- 防災合宿in熊野川
- ロボフェスタ2005in三重、盛大に開催される
- 津市内学校図書館関係者に「学校図書館のための情報リテラシー入門講座」を実施
- 「スクイーク・シンポジウム」が開催される
- 日本建築学会(論文賞)を受賞
- 「国際血栓止血学会賞」を受賞

お知らせ

附属図書館からー

文部科学省「派遣型高度人材育成協同プラン」に採択される



今年度から開始された標記事業に、本学の「地域圏バイオ・メディカル創業人材の育成」(申請担当者:大学院医学系研究科 山本哲朗教授)が採択されました。この事業は、産学連携による高度専門人材の育成を目的に、新たなコンセプトのインターンシップを開発するものです。今回、全国から55件の申請があり、20件が採択されました。

本学のプログラムは、バイオ・メディカル分野の高度専門人材を養成する2年制のプログラムを大学院修士課程に横断的に設置し、医学系研究科が中心的に運営するものです。地域圏企業と大学が新事業構築を目的に行う「地域圏協働研究プロジェクト」に学生を主担当者として継続的に参画させる「On the Project Training型教育」によって、「高度科学知識を有する起業家タイプの人材」を育てることを目指しています。(写真左から 田中利男教授、豊田長康学長、山本哲朗教授、西村訓弘特命教授)



「産学連携・ベンチャーサロンin東京」開催される

9月20日、東京都江戸川区にある「コラボ産学官」において本学と三重県との共同開催による「産学連携・ベンチャーサロンin東京」が開催されました。本学からは亀岡副学長と創造開発研究センターのメンバーが出席し、三重大学の概要や社会連携活動を紹介しました。また、三重県からはベンチャー企業の支援や三重県発ベンチャー企業のビジネスプランの紹介が行われました。参加者は総勢100名にもものぼり、講演会や交流会は盛況のうちに終わりました。



「コラボ産学官」には、社会連携だけでなく同窓会との連絡や学生の就職支援など様々な活動に活用する目的で、三重大学・東京オフィス(仮称)を設置しました。なお、東京オフィスの開所式は、12月上旬に行う予定です。

中部電力株式会社と産学連携に関する包括協定を締結



本学は、9月14日、中部電力株式会社との間で産学連携に関する包括協定を締結しました。調印式は、三翠会館で豊田学長、川口中部電力社長および関係者の出席のもと執り行われ、引き続き記者会見が行われました。これまでも本学と中部電力は、エネルギー・環境、生物資源分野等、理工系を中心とした個別の研究・調査において協力を行ってきましたが、今後は連携協議会を立ち上げ、具体的な活動内容を協議し、人文社会系から理工系に亘る広い分野において、より緊密な産学連携を行うこととしました。(写真は、豊田長康学長と中部電力(株)取締役社長 川口文夫氏)

第1回 日本-ドイツ再生医療カンファレンス



溝口 明教授

三重大学、三重県、ドイツMecklenburg-Vorpommern州教育省およびRostock大学が主催し、両国の第一線の再生医療の専門家が最新技術・知識を交換する目的で、9月9日10日の両日、本学三翠ホールにて、第1回 日本-ドイツ再生医療カンファレンス（カンファレンス会長：溝口明教授・大学院医学系研究科、委員：西川政勝講師・大学院医学系研究科、伊藤正明講師・附属病院、奥村克純教授・生物資源学部）が開催されました。再生医療の中心的概念は、「疾患に侵された臓器を、再生させた細胞で置き換えるという発想」ですが、この実用化に向けて、野呂知事および豊田学長、鎮西大学院医学系研究科長の出席のもと、日独両国の研究者約50名の講演と参加者400名による活発な学術交流が行われました。カンファレンスでは、「再生の元になる幹細胞（種になる細胞で、試験管中でいろいろな細胞に分化させられる）をいかに見つけ、採取し、増やし、疾患に侵された臓器と置き換えるか」などが議論されるとともに、実例として「心筋梗塞直後に幹細胞を心臓に注入すると、確かに治療効果がある（原因はまだ不明）」ことなどが紹介され、この新しい治療法の可能性と今後の科学的根拠の解明への期待に注目が集まりました。

APAN国際会議

2005年度APAN(Asia Pacific Advanced Network)国際会議が、8月23日-27日にかけて台湾（台北）で開催されました。今回、三重大学の関係者全員が、e-Cultureセッション（チェア：亀岡理事・副学長）に参加しました。佐藤教授・人文学部がコンテンツ(株)小野博社長と共同で「高精細GISを用いたミンナーカイブ海士」(<http://navi.town.ama.shimane.jp/>)、永田助教授が・人文学部が「防災・救助面からのCultureへの提言」、奥村晴彦教授・教育学部は「国際環境教育プログラム」（三重大X第3号参照）、そして奈良女子大学附属図書館の呑海沙織さんは「曼荼羅のデジタル近赤外線撮影画像」(<http://mahoroba.lib.nara-wu.ac.jp/y03/mandara/>)の発表を行い、参加者から絶賛をあびていました。

ISO講演会

9月12日、三翠ホールにて、千葉大学法経学部の倉阪秀史助教授を講師に「学生主体による環境マネジメントシステムの構築と運用」という演題で、環境ISO講演会が開催されました。千葉大学は今年2月、6学部を擁する西千葉キャンパスにおいて、学生委員会（当時会員数140名）が中心となり環境ISO14001を認証取得しています。本学においても環境ISO認証獲得を目指しており、学長始め教職員、学生など150名以上が聴講し、また質疑応答では学長他活発な質問が続出するなど、とても有意義な講演会となりました。

三重県との定期懇談会

9月22日、三重県庁において学長・理事および医学部附属病院長と野呂知事、丸山副知事および関係部局長（総合企画局長、健康福祉部長、農水商工部長）等との17年度第1回目の定期懇談会が開催されました。今回のテーマは、①地域医療及び附属病院再開発計画、②産官学連携に関するもので、特に①について、県内医療機関における医師確保や附属病院再開発計画に伴う救急救命センターの整備の必要性および整備方法について積極的な意見交換が行われました。今年度は更に理事、部局長級の個別テーマに関する定期懇談会の開催を予定しています。



学長補佐就任挨拶



廣岡秀一学長補佐

『教育に関わる企画・調査・分析・評定業務ならびに教育評価に基づく教育の質の向上・改善に関わる業務の補佐。これが今回私に与えられた職務です。今年4月から、高等教育創造開発センターの教育評価部門長を兼務していますが、それを踏まえてさらに教育評価面から教育の質の向上全般に寄与するように指示されています。「エビデンスに基づいた教育改善システム」を構築しようとしている教育担当副学長指揮の下、本学の教育改善に役立つエビデンスをできるだけ多く作り出していくことが私の任務だと考えています。』

『今回、私に与えられた職務は、組織評価および個人評価に関わる企画・調査・分析・評定の統括作業の補佐で、新たに設置された「評価企画室」の室長として、大学の経営・企画立案に資する基礎資料作成のほか、評価やマネジメントに資する基礎情報の調査・収集・分析、点検・評価活動への支援などを行うこととなります。本学および構成員の実績がより妥当な外部評価を受けられるように、また構成員の意欲向上を目指して、室員と共に職務に当たる所存です。』



畑中重光学長補佐

タイ国モンクット王ラカバン工科大学と学部間協定の締結

9月5日、モンクット王ラカバン工科大学のタウイン・ブンマ工学部長と副学部長2名が工学部を訪れ、学部間協定と学生交流覚書を締結しました。

同大学は、工学部、農学部、理学部、教育学部等の8学部を擁すタイ国有数の総合大学として知られ、これまでに多くの日本の大学と学术交流を積極的に進めており、今後、本学との間で研究者や学生間の活発な交流が期待されます。



左：タウイン・ブンマ工学部長
右：加藤征三工学部長

工学部で「リカレント教育講座」開催される

建築学科（学科長：浦山益郎教授）の社会人向けリカレント教育講座「地方分権時代における計画システムの展開方向 一都市計画行政 その2ー」が、7月9日に「地方中小都市における中心市街地活性化」と「名張市で取り組んだ『まちなか再生プラン』づくり」が、また、同23日には「景観法と景観まちづくりの新展開」がそれぞれ30余名の建築技術者、行政職員の参加者を迎えて開催されました。また、三重県内の都市計画プロジェクトに参画している浦山・浅野研究室の活動も併せて紹介されました。

米国交流校訪問



7月12日－17日、教育学部国際交流担当の早瀬光秋教授と宮地信弘助教授が、米国ミシガン大学及びノースカロライナ大学ウイルミントン校（UNCW）を訪問しました。ミシガン大学においては、岡まゆみ日本語科主任等と今秋行われる遠隔授業（担当：早瀬光秋教授）について詳細な打ち合わせと今後の両校における交流について討議しました。また、UNCWでは、エイドリアン・シャーマン教授（プロボスト〈学長と副学長の間職名〉の国際交流担当補佐）、加納洋子日本語講師等と、本学とUNCWとの学生交換を中心とした協定について協議しました。

工学部で「第6回レゴ・ロボット競技会」開催される

8月3日、物理工学科（学科長：山下護教授）で、レゴ・ロボット競技会を開催しました。この競技会は、毎夏開催しており、本年はボールを持ったロボットがデフェンダーに見立てた障害物を回避してボールをゴールに入れる「Pリーグソロドリブルサッカー競技会」で、12チームが争い、コースを5秒という高速で完走したロボットが優勝し賞状と賞品を獲得しました。この様子を多くの小学生、中高生が見守り、ZTV・三重TVなどの撮影取材もありました。

(<http://www.phenmie-uac.jp/lego/index.html>)



高大連携プログラム「スーパーサイエンスⅠ・Ⅱ」

本学は、昨年度より文部科学省からSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）の指定を受けている松阪高校とともに、科学に対する強い興味・関心を持つ高校生の育成に取り組んでいます。今年度は高大連携プログラムとして「スーパーサイエンスⅠ（理数科1年生対象）・Ⅱ（理数科2年生対象）」が、7月から8月にかけて実施されました。今年度から新しい形で始まった「スーパーサイエンスⅡ」では、医学部5研究室、生物資源学部2研究室、工学部5研究室で12グループに分かれて課題研究を行いました。この研究は高校の授業単位として認められ、また、その成果は2月の課題研究発表会と来年8月のSSH全国発表会で披露されます。

防災合宿in熊野川



8月9日－11日の3日間、和歌山県熊野川町の旧敷屋小学校において、本学災害対策プロジェクト室を中心として「防災合宿in熊野川」を和歌山大学およびNPO法人共育学舎と合同で開催しました。三重・和歌山両大学の学生、地域住民、行政職員など約50名が参加し、災害時に孤立した避難所におけるサバイバル生活を体験しました。

ロボフェスタ2005in三重、盛大に開催される

工学部、生物資源学部、教育学部の教員や学生らによって運営されたロボフェスタ2005in三重（実行委員長：石田宗秋教授・工学部）が8月8日～15日まで鈴鹿市を中心に開催されました。海外4カ国、国内、県内の中高校生60名が1週間をかけた共同でロボットを製作した国際Jrロボコンや研究室展示なども盛況でした。11日にはASIMO開発者の竹中透氏とロボット博士の森政弘先生を三翠ホールに招き、最先端の技術と創造性についての講演会も行われました。写真左：ASIMO開発者・竹中透氏 右：ロボット博士・森政弘先生



津市内学校図書館関係者に「学校図書館のための情報リテラシー入門講座」を実施

8月24日、附属図書館では津市教育委員会の「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」の一環として、司書教諭、図書館担当教員、ボランティア、図書館巡回指導員の方々を対象に「学校図書館のための情報リテラシー入門講座」を実施しました。「情報リテラシーとは?」「どんな本があるか調べたい時に便利! WebcatPlus: これまでにない新しい本の検索サイトをご紹介!」など、理論と実習を交えた内容で、参加者からは「わかりやすかった」「楽しかった」「新しい世界が開けた」「大学の図書館がこんなに一般の者に向けて開いているとは知らなかった。また利用したい」といった感想が寄せられました。



「スクイーク・シンポジウム」が開催される



8月26日、「スクイークの教育利用の可能性を探るシンポジウム」（教育学部附属教育実践総合センター・総合情報処理センター共催）が附属養護学校にて開催されました。思考力を伸ばすとされる教育用ソフト「スクイーク」について、6人の発表者が報告し、3時間にわたって活発な質問・討論・ワークショップが行われました。学校教員から学生までの幅広い参加者約50名を得て、とても有意義な時間となりました。（詳細は<http://cerp.edumie-u.ac.jp/icerp-k/no-4/no4.html>）

日本建築学会（論文賞）を受賞

工学部建築学科の畑中重光教授（建築マネジメント講座）が、5月に日本建築学会（<http://www.aij.or.jp/aijhomejhtm>）（会員数36,000名）より、建築学分野の学術の進歩に寄与する優れた論文業績に対して贈られる「日本建築学会賞（論文賞）」を受賞しました。業績名は「各種コンクリートの力学的・物理的性状の解明とその改善に関する一連の研究」で、コンクリートの破壊メカニズムの解明からポーラスコンクリート、真空脱水コンクリートといった新しい研究分野の開拓まで多岐にわたっています。同教授によれば、ほとんどが三重大学着任以降の17年間の業績で、その研究環境をつくって頂いた方々に深く感謝したいとのことでした。



賞牌

「国際血栓止血学会賞」を受賞



賞牌

大学院医学系研究科の鈴木宏治教授（分子病態学）が、心筋梗塞・脳梗塞などの血栓症、血友病などの出血症、血管生物学などの研究の発展に貢献した研究者に贈られる「国際血栓止血学会賞」を受賞しました。8月シドニーで開催された国際血栓止血学会（<http://www.medunc.edu/isth/>）の国際会議で表彰されました。日本人では7人目の受賞となり、組織の凝固・線溶系を調節する「プロテインCインヒビター」の発見、血液凝固を阻止する「トロンボモジュリン」の遺伝子クローニングにより血栓症治療薬の開発に道筋をつけた研究などが高く評価されたものです。

お知らせ

附属図書館から―東海・東南海・南海地震シンポジウム

図書館は、地域貢献事業の一環として、災害対策プロジェクト室と連携し、三重県・名張市・伊賀南部消防組合との共催で、10月22日（土）12:00～16:45、名張市役所大会議室において、標記のシンポジウムを開催します。本学及び地域の防災情報センターとして位置付けられている図書館所蔵の地震関係資料の展示、建物振動模型・液状化模型の実演や、三重県防災情報センター車「防災みえ号」のデモを行い、地域の方々の巨大地震に対する認識を高め、防災意識の向上を図ることが目的です。ぜひご参加くださいますようお願いいたします。



投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治（vpre-info@mie-u.ac.jp）または井上真理子（mariko-i@ab.mie-u.ac.jp）まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで（<http://www.mie-u.ac.jp>）ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾